

## 市長記者会見記録

日時：2023年5月9日（火）14時00分～14時23分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：【議題】令和5年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について  
【市政一般】

### <内容>

#### <議題>

#### <令和5年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について>

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日の議題は「令和5年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について」でございます。

初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしく申し上げます。

【市長】 本日は、令和5年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について報告をさせていただきます。それでは、お手元資料の1ページを御覧ください。

令和5年4月1日現在の保育所等利用待機児童数でございますが、まず、子育てと社会参加の両立を目指す家庭の増加に伴い、保育所等の利用申請者数は、前年度比で384人増となる3万6,491人となりました。また、利用児童数も前年度比413人増の3万4,968人となり、これらはどちらも過去最大の数値でございます。

一方、希望する保育所等に保留となった方は、前年度比で29人減の1,523人で、各区役所で入所保留となった方々の保育ニーズに応じたきめ細やかなアフターフォローを行った結果、令和5年4月1日現在の待機児童数は、3年連続ゼロ人となりました。

2ページに目に参りまして、平成27年以降の利用申請者数の推移であります。下段の表を御覧ください。就学前児童数につきましては、前年度比で3,170人の減となりました。しかしながら、申請率につきましては、平成27年度以降、対前年度比2%を超える伸びを示しており、今回、過去最大の51.8%となっております。

3ページに参りまして、待機児童対策における課題・取組でございます。まず、本市の待機児童対策を取り巻く課題として、主に3つの内容を挙げております。

1つ目は、利用申請者数の増加でございます。全市の就学前児童数については減少していますが、子育てと社会参加の両立を目指す家庭の増加に伴い、保育所等の利用

を希望する方の割合も引き続き上昇しています。

2つ目として、保育ニーズに対応した受入枠の確保でございます。育児休業制度の定着状況や保育ニーズの変化を的確に把握しながら、受入枠の確保や情報提供をしていくことが必要となっています。また、地域やお子さんの年齢によっては、定員に空きが生じている施設も見受けられることから、保育の需給バランスをよりの確に捉えながら、今後の対応を検討していく必要があります。

3つ目として、保育従事者の増加に伴う保育の質の確保でございます。保育施設の増加に伴い、不足する保育人材の確保をしながら、人材育成にも継続的に取り組む必要があります。本市においては、近年の全国的な傾向と同様に就学前児童数は減少しておりますが、その一方で、依然として利用申請者数・申請率は伸び続けております。待機児童の解消（※補記）継続的な達成に向け、これまでの取組の3本柱である、多様な手法を用いた保育受入枠の確保、区役所におけるきめ細やかな相談・支援、保育の質の維持・向上に取り組み、これまで以上に利用者に寄り添った丁寧な支援を行うことが重要となっています。

こうした中、地域や年齢によっては定員割れが生じるなど、保育需要と供給を取り巻く状況がこれまでとは異なった局面を迎えており、さらには、国が空きのある保育所等を未就園児など地域の子育て支援に活用する制度の検討を行っているところでございますので、動向を注視するとともに、本市におきましても、保育ニーズの変化や保育事業者の状況等を的確に見極め、需要と供給のバランスを図りながら、市民の皆様が子供を安心して育てることができるよう、より一層きめ細やかな保育施策を推進してまいります。

以上で、令和5年4月1日現在の保育所等利用待機児童数についての説明を終了します。

【司会】 それでは、本日の議題についての質疑応答に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題についての質疑が終了後、改めてお受けいたします。進行につきましては、幹事社各社様、よろしくお願いいたします。

【東京（幹事社）】 幹事社の東京新聞です。よろしくお願いいたします。

待機児童問題に関しましては、10年前、市長が初当選されたときには、中学校給食の実現と併せての最優先事項として掲げられていた内容だとは思いますが、今回、3年連続で待機児童ゼロを達成したということに対する市長の率直な思いをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 そうですね、10年前に当選したときは、待機児童というものはなくなら

ないものだと言われておりました。やればやるほど潜在的な児童を掘り起こすんだと言われておりましたけれども、「待機児童」という言葉がなくなるまでやるんだということを宣言して、今年、3年連続で待機児童ゼロということ達成できたことは感慨深いものがありますし、また、先ほどもお話ししましたけれども、一つの局面というものを迎えているのではないかなと思っています。

この数年、やはり地域によっては、引き続き需要の多い地域とそうではない地域というのが、少しばらつきが出てきていることもありますし、全市で見ますと、各学年、各年齢、全てにおいて空きが生じているという面もございますので、一つ、局面は変わってきたかなとは思っております。

【東京（幹事社）】 あわせて、局面が変わっている中で、この3月をもっておなかま保育室が廃止されたと思うんですけれども、利用者の方に声を伺ってみると、やはり認可保育園には落ち続けていて、川崎認定保育室については、市からの補助があったとしても保育料が一律では高いという受け止めもある中で、存続を望む声もありました。そういう、おなかま保育室のようなサービスが市の待機児童対策を支えてきた部分もあると思うんですけれども、その点について市長の思いを伺えますでしょうか。

【市長】 多様な手法によって受入枠を確保してきたというのが本市の特徴であると思っていますけれども、おなかま保育室についても、その時代の要請に応じて非常にすばらしい役割を担っていただいたと思っています。

川崎市の認定保育園につきましても、料金のことというのは課題がございますけれども、市内で約2,000人の子供たちが今も入所されておりますけれども、その9割は、基本的にはそのまま、認可保育所に申し込まずに直接認定保育園のほうに申し込まれていると、そういった多様なニーズがあるんだと捉えておりますので、引き続き、認可だけにとどまらず、多様な受入枠の確保に努めていきたいと思っています。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

各社さん、いかがでしょうか。

【司会】 ほかによろしいでしょうか。

【読売】 読売です。

3年連続ゼロで、数字的には非常に落ち着いてこられたんじゃないかと思いますが、中身についてはまだまだ、個々の捉え方もいろいろあって、御不満の向きも多分あるんじゃないかと思います。昨日伺った話では、例えばお子さんを別々の園に通わせなければならない、そういう声が結構市長への手紙なんかでも結構寄せられていると。そういう数字的な目標は、ある程度クリアされながらも、まだそういう実態もある、

その辺についての市長の感じ方、受け止め方はいかがですか。

【市長】 誠にそのとおりだと思います。市長への手紙でも、今おっしゃっていただいたように、兄弟が別れて登園せざるを得ないという状況もありますし、今後、先ほど受入枠の話をしていただきましたけれども、より丁寧な対応というのはこれからの課題になってくるかなと思っています。

以上です。

【読売】 ありがとうございます。

【毎日】 毎日です。

関連なんですけど、よりきめ細かな丁寧な対応をされるためには、やはり実態把握が重要になってくると思うんですが、例えば別々の園に通うことになってしまっている人たちの、いわゆる隠れ待機と言うんでしょうか、そういった人たちの状態はどのぐらいあるかという実態調査みたいなものは、やられる予定はあるんでしょうか。

【市長】 基本的には、実態は把握しております。それぞれの各区で丁寧なフォローをしておりますので、第一子がここにいらっしゃって、この子はこういう状況にあるというのは把握していますので、そのニーズに応じてきめ細やかな対応をしているということでもありますし、引き続きやっていくということです。

【毎日】 関連なんですけど、例えば別れちゃっている場合というのは、どういうふうにして手当てしていくんですかね。

【市長】 例えば、これまでもそうなんですけれども、これまでも加点といいましょうか、いろんな審査基準というのをこれまでも毎年のようにいろんな形で見直してきました。そういった形でやるケースというのも今後も出てくるでしょうし、いろんな手法があると思っています。ですから、例えばここに集中しているニーズがあれば、保育所整備についても、これからより細かく整備のほうもやっていかなくちゃいけないと思いますし、そういう調整は必要になってくると思います。

【司会】 ほかはいかがでしょうか。

それでは、議題を終了させていただきますので、関係者一同、退席をさせていただきます。

#### 《市政一般》

#### 《コンビニエンスストアでの証明書交付サービスの臨時休止について》

引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。進行につきまして、幹事社様、よろしく申し上げます。

【東京（幹事社）】 それでは、コンビニエンスストアでの証明書交付サービスの臨時

休止の件なんですけれども、今回、ゴールデンウィーク直前にこういうふうな事案が発生して、翌日には一部サービスは再開できたけれども、一部のサービスについては今日の朝まで再開がかかってしまったということについて、市長のお考えを伺えますでしょうか。

【市長】 まず、対象になられた方、誤交付になってしまった方に対しては、大変な御迷惑をおかけしましたことにおわび申し上げますとともに、連休中、連休直前ということもありましたので、そういった意味では申請を、コンビニ交付を受けたいと思われる方も多かったと思います。そこができなかったということに、率直におわびを申し上げたいと思っています。

このシステム不良といいますか、ということが原因だということですので、今回、もう既に対策は取られたということでもありますけれども、今後このようなことがないように、しっかりとシステムをつくられたところにも言っていかなければならないと思っています。

【東京（幹事社）】 今日の閣議後会見で河野大臣のほうから、富士通 J a p a n のシステムを入れている 200 の自治体に対して、1回、システムを止めて再点検をするということを要請したという話があったんですけれども、川崎市はもう既に今回の事案があって、調査を行ったという形にはなっていると思うんですけれども、川崎市においても、また改めて国からの要請を受けて再点検をやっていくという形になるのでしょうか。

【市長】 詳細が分かっているわけではありませんけれども、河野大臣が、止めて何を点検しろとおっしゃっているのかということを確認する必要があるかなと思っています。今回のシステムを、もう既に変更になっていますので、同様なことがもう既に川崎市では起こらないということは承知していますし、横浜と、あと……。

【東京（幹事社）】 足立ですね。

【市長】 足立ですか。少なくとも横浜の話、聞いておりますけれども、同じシステムの不良ということではありますけれども、全く別の事案でありますので、そういった意味では、どこをどのように止めてチェックするのかということは、現時点では分からないと言ったほうが正しいのかもしれませんが。もう少し詳細を聞きたいと思っております。

【東京（幹事社）】 やはり点検のためにまた止めるとなると、市民に対して迷惑がかかってしまうという部分について、市長としてはちょっと懸念されていらっしゃるのでしょうか。

【市長】　そうですね。まず、何が、不具合が起こるリスクがあるから点検しろとおっしゃっているのかを確認する必要があると思います。少なくとも、今回川崎市で起こったことは起こりませんし、横浜市で起こったようなことというのは、川崎市では、富士通さんのところではありませんので、起こらないというふうに思っています。

#### 《市役所におけるChatGPTの利用について》

【東京（幹事社）】　ちょっと話変わりました、C h a t G P T がにわかにならなくて、神奈川県内でも横須賀などで話がありましたけれども、市長もDXについてははすごく力を入れていらっしゃると思うんですけども、川崎でのC h a t G P T の活用などについて、考えていらっしゃるものがあれば教えていただけますでしょうか。

【市長】　C h a t G P T によって効率化できることと、それからそれに伴うリスクというのをやっぱりしっかりと見極めないといけないと思っていますので、私どもとしては、しっかりとまず見極めたいと思っています。何か一日を争って自分たちが先にやろうというつもりは、今そういう考えは持ち合わせておりません。しっかりとリスクを見極めた上で、どんなものに対して有用なのかということを見極めたいなと思っています。

国のほうでも、今、ちょうど今日とか昨日とかで会議をやって、かなりルールづくりとか、ちゃんと申請しないと使えないとかというルールづくりがされるようですから、その辺りを見ていきたいなと思っています。

【東京（幹事社）】　各社、いかがでしょうか。

#### 《コンビニエンスストアでの証明書交付サービスの臨時休止について》

【朝日】　朝日新聞でございます。

同じ、関連なんですけれども、河野大臣の会見では、富士通 J a p a n に対して、システムの一時停止と再点検を要請したということなので、全国およそ200の自治体が、川崎市も含めてシステムを採用していて、こうなると再び一時停止という事態になるのかなと思いますけれども、そのことについてはどう受け止めていらっしゃいますか。

【市長】　ちょっとその内容からだど、おっしゃるとおり、200の自治体に私どもも、富士通さんのシステムを使っている以上、入るのかと聞こえますが、そこの辺りをもう少しちゃんとに詳細確認したいと思います。大臣も非常に合理的な方ですので、直ったものをわざわざ止めてまでというのは、ちょっと想定しにくいかなと思っていますので。

【朝日】 これはもう、私も根拠がないんですけれども、また別の何かシステム不具合が出て、川崎市のシステムに影響が出る可能性も皆無ではないのかなという気もしないではないんですが。

【市長】 少なくとも、コンビニ申請に係るところについては、問題はないと考えています。それこそ最近、システム関係でいろんな不祥事が起きていますので、そう考えると、全市で見ると、すさまじく多くのシステムを使っていますので、そういうリスクはいつもあると思いますが、少なくとも今回の事案に対してのことについては、何か止めてまでやるものではないのではないかなと、本市のものについてはですね、とは思っておりますけれども。

【朝日】 ありがとうございます。

【t v k】 テレビ神奈川と申します。

今のコンビニでの交付についてなんですけど、1件既に解消されて再開したということで、もう今は問題ないということなんですけど、一方で、手軽さの一方で、今回非常にシステム面、信用、信頼を損なう結果になってしまったと。これで使い控えが起きてしまうことも一つ心配されるのかなと思うんですが、その辺りいかがでしょうか。

【市長】 そうですね。マイナンバーの信頼性を損なってしまう懸念があるということは、そういうことだと思います。ですから、こういったことが起きると、おっしゃるような懸念が広がってはいけませんので、しっかりと信頼確保に向けた取組というのが必要だと考えています。

【t v k】 ありがとうございます。

#### 《カドカワドリームズについて》

【読売】 打って変わってめでたいほうの話なんですけど、先月、会見でも伺いましたプロダンスのDリーグで、川崎のカドカワドリームズが初優勝をされましたけれども、その受け止めと、あと、これから夏に、今度はイギリスで行われる世界大会に挑戦されるということで、そこでも優勝を目指されているそうなんですけど、そこへの期待を伺いたいんですが。

【市長】 川崎に拠点を置いていただいているカドカワドリームズが優勝されたということで、本当にうれしく思います。特に川崎市はダンス、ダンススポーツに力を入れておりますので、まさに優勝で日本一を捉えて、次は世界をとということでもありますので、頑張ってください、子供たちに夢を与えていただきたいと思います。

一度、直接お目にかかってお祝いをという話で、今、日程調整していると聞いていますが、喜びを分かち合いたいなと思っています。

【読売】 来年のパリ五輪ではブレイキンが正式種目になりまして、そういうのを控えている中で、若者文化とかダンスのまちというのを出していきたい川崎としては、彼らと今後コラボして何かやっていくみたいなお考えはあるんでしょうか。

【市長】 そうですね、プロリーグで、今どういう制約があるのかあれですけども、ぜひ一緒にできる、川崎のまちを大いにダンスで盛り上げてくださるすばらしいメンバーの皆さんだと思うので、いろんなところでコラボできればなと思っています。

本当に、ヒップホップにしてもブレイキンにしても、この前ここで会見をやらせていただいたジャンプロープ、ダブルダッチ含むジャンプロープもそうですし、本当に若者文化が一気に花開いているという、これまでの蓄積みたいのがここに来て花開いているなという感じがしますので、ぜひみんなで盛り上げていきたいと思っています。

【読売】 ありがとうございます。

#### 《コンビニエンスストアでの証明書交付サービスの臨時休止について》

【朝日】 すみません、念のため確認なんですけど、先ほどの交付ミスの関係で、富士通 J a p a n さんが、国の、大臣発言を受けてシステムを一時停止したいと、富士通 J a p a n さんのほうから投げかけがあった場合は、川崎市としても同調するということがよろしいでしょうか。

【市長】 これは、先ほども申し上げたとおり、ちょっと確認をさせていただきたいというのは、合理的な理由がなくシステムを止めるというのは、市民サービスに大きく影響が出ますので、何をどのように停止してチェックするのかということ、それが本市が当てはまるのかどうかということも含めて、確認の上、対応してまいりたいと思っています。

【朝日】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問はいかがでしょうか。

それでは、本日の市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

---

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355